

令和 6 年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

- 創立 80 年を超える歴史を持つ泉州地域の伝統校、普通科高校として、どんな社会でも揺るがない土台「心幹」を持ち、他者とコミュニケーションをとりながら、自分の人生を、社会を豊かにできる一人前を育成する。
- 1）他者とより良い関係を築きながら、責任を持って役割を果たす自律・自立できる「人間力」を育成する。
- 2）基礎となる幅広い教養を身につけ、日常場面で活用できる「教養力」を育成する。
- 3）自己と向き合い、他者と協働しながら、粘り強く課題解決を図ることができる「協働的探究力」を育成する。

2 中期的目標

- 1 確かな学力の育成と学びの深化
- (1) 「わかる授業」を土台に、「主体的・対話的で深い学びを育む授業」づくりをめざす。
- ア IMPT（泉-OHTSU 学び充実 プロジェクトチーム）を中心に、「主体的・対話的で深い学びを育む授業」づくりの実践（単元の逆向き設計による本質的な問いをふまえた授業実践・観点別評価を踏まえた授業充実）を進める。
- イ SSPC（スマートスクールプロモーションコーディネーター）を中心に、1 人 1 台端末を活用した授業実践を進め、組織的に個別最適な学びと協働的な学びの充実を進める。
- (2) 教科・探究・トータルキャリアプラン・学校行事等におけるカリキュラムマネジメントを推進し、資質・能力（3 つのキー・コンピテンシーと 9 つのターゲット）の評価軸を組み入れた育成サイクルを充実させる。
- ※ 授業アンケートの平均点を令和 8 年度までに 3.25 以上にする。（R3 :3.22、R4 :3.23、R5 :3.23）
- ※ 学校教育自己診断（生徒）「1 人 1 台端末を効果的に活用」の肯定的回答を令和 8 年度までに 85%以上にする。（R4 新規:67%、R5 :83%）
- ※ 学校教育自己診断「「泉大津高校の『ねがい』」に向かう教育活動」の肯定的回答を令和 8 年度までに生徒 75%・教職員 95%以上にする。（R4 新規:生徒 69%・教職員 82%、R5 :生徒 70%・教職員 93%）
- 2 「高い志」を育み、「将来の夢」を実現
- 3 年間を見通した志学、キャリア教育、人権教育を連動させた生徒育成プログラム（＝トータルキャリアプラン）を実行する。
- (1) 「総合的な探究の時間」をコアカリキュラムとして、他者との繋がりの中で「人間力」「教養力」「協働的探究力」を育成する。
- ア 生徒が自立心をもって自らの生き方を考え、アンテナを広く張って自ら問いを立てられる力を持ち、課題を解決できる力を育成する。
- イ 地域に根差し、地域課題の解決をめざす協働的・探究的な学びの充実に取り組む。
- (2) 進路目標を達成できる学力を 3 年間で育成する。
- ア 基礎学力の定着、進路実現をめざし、学年・教科・分掌間の連携を図り、放課後や長期休業中の講習・補習を充実させ、生徒が根気よく試行錯誤しながら学びを深められるよう支援する。
- (3) 生徒一人ひとりが希望する進路を実現するための組織的・計画的な進路指導を充実させる。
- ア 学年ごとに適切な進路情報の提供を行い、生徒の進路実現を支援する。
- イ 学年・教科・分掌間の連携を図り、面接指導、奨学金説明会等、希望する進路に応じた支援を充実させる。
- ※ 学校教育自己診断（生徒）「総合的探究は協働的探究力を養うのに役立つ」肯定的回答を令和 8 年度までに 80%以上にする。（R3 :64%（R3 は人生に役立つ）、R4 :72%、 R5 :69%）
- ※ 学校教育自己診断（生徒）「進路情報肯定率」を令和 8 年度までに 87%以上にする。（R3 :81%、R4 :82%、R5 :86%）
- ※ 3 年生 4 月当初の進学希望先調査を達成できた生徒の割合を令和 8 年度に 99%以上にする。（R3 :98%、R4 :98%、R5 :97%）就職内定率 100%を維持する。
- 3 生徒の自己有用感と人権意識の向上
- (1) 生徒の規範意識を醸成させるとともに、個々の生徒への支援体制を充実させる。
- ア 自主的に規律を守り、自律心をもって行動する人をめざし、基本的生活習慣の確立と規範意識の醸成に努める。
- イ 全教員がカウンセリングマインドを持って生徒指導にあたる。
- (2) 特別活動や生徒会活動を通じて、生徒自らが主体的に参加することで、生徒の自己有用感を高め、連帯意識や公共精神を培う。
- ア 行事や生徒会活動、部活動、ボランティア活動等を通じて、集団の中で主体的に他者と協働する力を育む。
- イ 1 年次から行事等を主体的に企画・立案・運営するよう支援し、向上心や協調性を高めるとともに、言語活用能力（コミュニケーション力やプレゼンテーション力）を育成し、チームで解決する力の向上を図る。
- (3) 生徒の人権尊重の意識を向上させ、多様性を尊重し、思いやりをもって共生できる力を育成する。
- ア いじめ・差別をしないさせない意識の醸成と集団づくりに努める。
- ※ 学校教育自己診断（生徒）「生徒指導への満足度」を令和 8 年度までに 63%以上とする。（R3 :54%、R4 :55%、R5 :62%）
- ※ 学校教育自己診断（生徒）「学校行事への満足度」を令和 8 年度までに 86%以上とする。（文化祭/体育祭 R3 :86%/85%、R4 :74%/80%、R5 :85%/86%）
- ※ 学校教育自己診断（生徒）「人権を学ぶ機会」の肯定率を令和 8 年度までに 92%以上とする。（R3 :92% R4 :92%、R5 :90%）
- 4 安全・安心を土台にした総合的な学校力の向上
- (1) 生徒が安全・安心に学校生活を過ごせる環境づくりを充実させる。
- ア 教育相談体制の一層の充実にむけて、保護者や関係機関との連携を強化する。教育相談・支援委員会、支援教育コーディネーターを中心に、生徒一人ひとりへの支援とサポート体制を充実させる。
- イ 保健・安全指導を徹底して、事故防止の取組みを進めるとともに、大規模災害への備えと緊急事態発生時の迅速に対応できる校内体制の強化を図る。
- ウ 個人情報の適正管理と個人情報保護の精神を徹底する。
- ※ 学校教育自己診断（生徒）「事件・災害発生時の行動の周知」の肯定率を令和 8 年度までに 80%以上にする。（R3 :69%、R4 :78%、R5 :78%）
- ※ 学校教育自己診断（生徒・保護者）「教育相談への満足度」を令和 8 年度までに生徒 72%・保護者 87%以上にする。（生徒/保護者 R3 :63%/81%、R4 :64%/85% R5 :70%/86%）
- (2) 校内組織・教職員集団づくり、働き方改革に向けた取組みを推進する。
- ア 学年主任間会議を活用し、生徒育成の教育課程の円滑な実施と内容の継承・充実につなげる。
- イ 教職員が主体的に教育活動ができる学校現場づくりを推進し、誰もが学校運営に向けた建設的な改善策や新たな取組みを提案できる教職員集団となるよう取り組む。
- ウ 教職員の新たな学びを育成する校内研修の充実と、校外研修への参加、校内共有を推進する。
- エ 教職員の多忙化解消に向け、業務の精選と校務運営の効率化を進める。
- ※ 学校教育自己診断（教員）「各種会議は教職員の意思疎通や意見交換の場として有効に機能」を令和 8 年度まで 75%以上を維持する。（R3 :66%、R4 :76%、R5 :79%）
- ※ 学校教育自己診断（教員）「経験の少ない教職員の育成」の肯定率を令和 8 年度まで 80%以上とする。（R3 :72%、R4 :94%、R5 :79%、）
- (3) 「行きたい学校」となるよう、本校の教育活動を積極的に発信し、広報活動の充実を図る。
- ア 中学校、保護者、教育関係者向けの情報発信と緊急時の情報発信を充実させる。
- イ 生徒体験型の中・高・大（専）等多様な主体との交流・連携を進め、本校の魅力を発信する場とする。
- ※ 学校説明会参加者アンケートの肯定的評価（中学生）を令和 8 年度まで 90%以上を維持する。（R3 :89%、R4 :93%、R5 :92%）

府立泉大津高等学校

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析〔令和6年11月実施分〕	学校運営協議会からの意見
【中期的目標の項目に沿って結果分析】 1 「わかる授業」を土台に、「主体的・対話的で深い学びを育む授業」づくりをめざし、IMPT が推進する本校の「ねがい」に向けた教育活動の充実、ICT や1人1台端末を活用する授業の充実、授業内容の工夫、教科内での情報共有、学校全体での研修等により、授業充実が図られている。 ・「泉大津高校の『ねがい』」に向かう教育活動を行っている（生徒 70%⇒72% 保護者 78%⇒80% 教職員 93%⇒92%） ・情報機器の利用や体験的な授業の充実（生 76%⇒73%） ・1人1台端末の活用（生 83%⇒84%） ・教育活動について日常的に話し合っている（教 96%⇒95%） ・生徒の学びに関する研究や実践を行い、情報共有している（教 86%⇒87%） 2 トータルキャリアプランを実行し、生徒の進路実現に尽力している。保護者の理解も得ている。総合的な探究の時間では泉大津市や大阪大学等と連携し、地域連携の充実を図った。 ・総合的な探究は協働的探究力を養う（生 69%⇒72%） ・進路の情報を知らせてくれる（生 86%⇒86%） ・将来の進路や生き方について考える機会がある（生 87%⇒89%） ・適切な進路指導を行っている（保 86%⇒87%） ・授業以外の講習は満足できる（生 76%⇒78%） 3 体育祭ではルールの守り方が甘かったこと、文化祭ではその点をしっかり踏まえて行動できたことがわかる。また、アイス販売に生徒会執行部を中心に取り組んだことで、生徒会活動へ参加したという回答が増えた。学校生活においては、規律が守られている。 ・学校行事への満足度（生 体育祭 85%⇒78% 文化祭 76%⇒88%） ・生徒会活動は活発（生 59%⇒81%） ・生徒指導への満足度（生 55%⇒62%） 4 チーム学校が機能し、全体で生徒を支援する体制をとっているが、昨年より数値が下がった。教職員一人ひとりが生徒に寄り添った指導・支援を行い、チームで支援していけるようにする。 教職員が各々の持ち場で力を発揮したり、また助言、協力しあうことで、働きやすい職場づくりができてきている。経験の少ない教職員の育成について全体で取り組んでいる。教員数が少なくなり負担が増えている。 公式 SNS を開設し、広報活動に力を入れてきている。 ・人権について学ぶ機会がある（生 90%⇒92%） ・いじめなど困っていることに真剣に対応してくれる（生 80%⇒78%） ・担任以外でも気軽に相談できる（生 70%⇒70%） ・適正・能力に応じた校内人事や校務分掌の分担で、教職員が意欲的に取り組める環境にある（教 82%⇒72%） ・気軽に相談できるような職場の人間関係（教 96%⇒97%） ・経験の少ない教職員の育成（教 79%⇒85%） ・広報活動の充実（教 82%⇒82%） ・HP・SNS をよく見る（生 22%⇒45% 保 29%⇒46%）	【第1回】令和6年7月9日（木） ① 令和6年度学校経営計画について ② 今年度の取組み等について ・卒業生の進路状況・広報活動 ・DX 加速化推進事業 ③ 令和7年度使用教科書の選定について（報告） ○令和6年度入試について（定員割れ）の分析と「行きたい学校」に向けた取組みについて、意見をいただいた。 ・私立無償化で専願が増えるだろう。中学校でも新入試制度の影響、動向を見守る必要がある。 ・施設・環境面で充実している私学に対して、今年度、魅力発信チームをつくり、パンフレット、HP、SNS、学校説明会、卒業生インタビューなど動き出していると聞いた。このような活動を通じて教員の OJT にもなると期待している。 ・中高連携も重要である。 ・親子三代泉大津高校というご家庭もある。伝統と現在の取り組みに自信をもって、泉大津高校について発信してほしい。 【第2回】令和6年12月13日（金） ① 令和6年度学校経営計画の進捗状況について ② 令和6年度学校教育自己診断結果 報告 ③ 授業見学 ○授業見学後、意見をいただいた。 ・ICT の活用が進められており、画像で見ることで学びの効果が上がっているのではないかと。視覚の変化があり、目で見えるインパクトが学習に役立っていると感じた。 ・学年が上がるにつれて学ぶ姿勢が良くなっていると感じた。 ・中学校はいろいろな生徒がいて1人ひとりに応じた配慮をしながら授業を行っている。高校もとても丁寧に授業をされていると感じた。先日、泉大津市の3中学校は近隣の高校の先生に出前授業に来てもらい、中学生に向けて非常に良い授業をしてもらった。生徒が一生懸命に授業を受けている姿を見させていただいた。 ○PTA についての参加について、ご意見をいただいた。 ・高校は住んでおられる地域も広く、仕事をしておられる保護者の方も多いので、参加することが難しいのは確か。 ・来ていただいている保護者は本当に協力的で、前向きに楽しんで参加してくださっており感謝している。 【第3回】令和7年3月3日（月） ① 令和6年度学校経営計画・学校評価の達成状況について ② 令和7年度学校経営計画について ○学校評価についてご意見をいただいた。 ・食堂のアイス導入に向けた生徒会の活動のような、学校をよりよくしようとする活動を増やしてほしい。 ・部活動の交流を大学や地域ともしてみてはどうか。地域の大会に出るなど。⇒すでに出場している。 ・DX 推進事業については大変興味深い。「DX で地域とつながる」というコンセプトもいい。幼稚園でもプログラミングを導入しているが、高校に園児を呼んでももらえるのはありがたい。 ・学校の SNS を楽しみに見ている。子どもの様子がよくわかる。

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標〔R5年度値〕	自己評価
1 確かな学力の育成と学びの深化	(1) 主体的・対話的で深い学びを育む授業づくり (2) 資質・能力(3つのキー・コンピテンシーと9つのターゲット)の評価軸を組み入れた育成サイクルの充実	(1) ア・IMPT(泉-OHTSU 学び充実 プロジェクトチーム)を中心に、「主体的・対話的で深い学び」をめざした授業実践にかかる研修を行い、授業改善やパフォーマンス課題の実践をチームとして進め、校内で情報共有し、より一層の充実に努める イ・SSPC(スマートスクールプロモーションコーディネーター)を中心に、1人1台端末を活用した授業実践にかかる研修を実施し、個別最適な学びと協働的な学びを充実させる ・好事例の共有、教材の共有等チームで取り組む (2) ア・生徒育成の教育課程(教科・探究の時間・トータルキャリアプラン・学校行事など)のカリキュラムマネジメントを推進する ・教職員すべてが「泉大津のねがい・ねらい」を意識した教育活動を行う ・資質・能力の評価軸を組み入れた育成サイクルの充実を推進し、PDCA サイクルをまわす	(1) ア・授業充実研修2回以上〔3回〕 ・授業アンケート平均3.24以上〔3.23〕 ・研修の振り返りの共有 イ・自己診断(生徒)「1人1台端末の活用」85%以上〔83%〕 ・1人1台端末活用授業の公開授業を2回以上実施〔4回〕 (2) ア・自己診断「泉大津高校の『ねがい』」に向かう教育活動を行っている。生徒72% 教職員95%〔生徒70% 教職員93%〕 ・IMPT・探究委員会・学年で振り返りを行う	(1) ア・生徒見学をテーマを決めて実施、その検討会を8月、1月に実施(○) ・授業アンケート平均3.21(△) ・全教員で全体会の振り返りを3月に共有する イ・自己診断(生徒)「1人1台端末の活用」84%ではあったが、活用の幅が増えている(○) ・研究授業で3回、探究発表会では全員が端末を活用してグループでスライドを作成し発表会を行ったり、4回実施(◎) (2) ア・自己診断「泉大津高校の『ねがい』」に向かう教育活動を行っている」生徒72%(○) 教職員92%(△) ・IMPT では、生徒と教員の学び充実を図るため、3年間を見通したカリキュラム・マネジメントについて議論した。生徒見学や全体検討会を通じて、現状の課題の整理と次年度以降の取り組みの見通しを立てた(○)

府立泉大津高等学校

2 「高い志」を育み、「将来の夢」を実現	(1) 「総合的な探究の時間」をコアカリキュラムとして、他者との繋がりの中で「人間力」「教養力」「協働的探究力」を育成する (2)進路目標を達成できる学力を3年間で育成する (3)生徒一人ひとりが希望する進路を実現する為の組織的・計画的な進路指導	(1) ア・「総合的な探究の時間」の内容を精査し、充実を図り、生徒の問いだて力、課題解決能力を育て、自らの夢を描き、実現する力を育む イ・泉大津市をはじめとした地域課題の解決をめざす協働的・探究的な学びの充実をめざし、近隣関係機関との連携と内容の充実を図る ・3年間で系統立った総合探究を推進するため、効果検証を行う (2) ア・放課後や長期休業中の講習・補習の充実を図り、生徒の参加を促す イ・大学入試を意識した外部検定試験の挑戦を促し、合格をサポートする 英検、漢検、数検の受験者を支援する (3) ア・トータルキャリアプランを通じて、学年ごとに適切な進路情報の提供を行い、生徒の進路実現の支援を行う イ・学年・教科・分掌間の連携を図り、講習や面接指導等、希望する進路に応じた支援の充実で進路の実現を図る	(1) ア・自己診断(生徒)「総合的探究が協働的探究力を養うのに役立つ」73%以上〔69%〕 イ・泉大津市からもご意見をいただき、探究委員会・学年主任間会議において検証する (2) ア・自己診断(生徒)「講習満足度」75%以上の維持〔76%〕 ・長期休業中講習参加者 30%以上〔19%〕 イ・模試や検定受験者への指導・支援の実施 (3) ア・自己診断(生徒)「進路情報」肯定 85%以上の維持〔86%〕 イ・3年4月段階の進路希望の実現 97%以上の維持〔97%〕、就職内定率 100%維持〔100%〕	(1) ア・自己診断(生徒)「総合的探究が協働的探究力を養うのに役立つ」72%で数値目標には達していないが、探究の取組みは活発で、昨年より3ポイント上昇している(○) イ・3学年とも、企業、市、大学と連携し、充実した探究活動を実施した(○) 1年：新商品開発の単元では、導入として株式会社マイナビに講輪話を依頼 他「働く探究」「自己紹介すごろくを作ろう」 2年：「自由テーマ探究」「修学旅行探究」「社会人基礎力探究」 3年：「豊かな人生探究」のほか、泉大津市、大阪大学と連携した地域探究の2年め (2) ア・自己診断(生徒)「講習満足度」78%(○) ・長期休業中講習参加者7%(△) イ・模試、検定受験者向けに講習等を行った。 3年模試15人、12年実力診断模試39人 情報処理技能検定 準2級3人、3級4人合格 文章入力スピード認定試験 2級2人、準2級2人、3級2人、4級1人(○) (3) ア・自己診断(生徒)「進路情報」86%(○) イ・3年4月段階の進路希望の実現 99%、就職内定率 100%
3 生徒の自己有用感と人権意識の向上	(1) 生徒の規範意識を醸成、個々の生徒への支援体制の充実 (2) 特別活動や生徒会活動を通じて、生徒自らが主体的に参加することで、生徒の自己有用感を高め、連帯意識や公共精神を培う (3)生徒の人権尊重の意識を向上させ、多様性を尊重し、思いやりをもって共生できる力を育成する	(1) ア・身だしなみの意義を理解し、全校一致の目標(頭髪・制服等)を生徒と共有し、規範意識を醸成する ・問題行動等を生徒自らが考え、学校生活を落ちついた中で過ごせる支援を実施する ・自転車通学者のマナー指導での警察・外部と連携と体験的な交通安全講習会を実施する ・全生徒への「薬物乱用防止教室」の取組みを、外部と連携して実施する (2) ア・体育祭、文化祭を生徒会が主体的に運営できるよう支援するとともに、他の活動についての広報活動に努める ・首席を中心に、部活動の活性化を図り、部活動加入率を上げる ・生徒が自主的清掃活動に取り組むよう保健部が中心となって啓発活動を行う ・さまざまなボランティア活動情報を提供し、参加生徒を募り参加させることで、自尊感情を高め、他者尊重の精神の涵養から社会に貢献できる人材育成を図る イ・1年次から行事等を主体的に企画・立案・運営するよう支援し、向上心や協調性を高めるとともに、言語活用能力(コミュニケーション力やプレゼンテーション力)を育成し、チームで解決する力の向上を図る ・生徒会・各クラス委員が連携し、教員とともに、「あいさつ運動」を推進し、コミュニケーション力をあげる (3) ア・いじめ・差別をしないさせない意識の醸成と集団づくりに向けて、人権学習を充実させる ・生徒の心に響く人権講演会を企画する	(1) ア・年間遅刻件数2000件以下の維持〔1876件〕 ・体験的交通安全講習会1回以上〔2回〕 ・「薬物乱用防止教室」の取組み実施1回以上〔1回〕 ・自己診断(生徒)「生徒指導への満足度」肯定63%以上〔62%〕 (2) ア・自己診断(生徒)「生徒会活動」肯定率65%以上〔59%〕 ・自己診断(生徒)「行事の満足度」文化祭・体育祭85%以上の維持〔85・86%〕 ・1年生の部活動加入率 50%以上〔43%〕 ・小・中学校との交流を5クラブ、15回以上〔6クラブ、31回〕 ・自己診断(生徒)「清掃活動を積極的に行う」80%維持〔82%〕 ・ボランティア参加生徒5事業、50名以上を維持〔9事業、84名〕 イ・学年主任間会議において検証する ・自己診断(生徒)「高校に入ってからあいさつするようになった」を80%以上〔79%〕 (3) ア・自己診断(生徒)「人権を学ぶ機会ある」90%以上を維持〔90%〕 ・自己診断(生徒)「学校はいじめに真剣に対応」82%以上〔80%〕 ・人権講演会1回以上〔1回〕	(1) ア・年間遅刻件数1880件(○) ・体験的交通安全講習会1回(○) ・「薬物乱用防止教室」の取組み実施1回、加えて終業式や学年集会でも注意喚起した(○) ・生徒指導部をはじめ教職員が生徒に対してカウンセリングマインドをもって寄り添いながら、粘り強く指導を行っている 自己診断(生徒)「生徒指導への満足度」肯定66%(○) (2) ア・アイス販売に向けての活動や、行事での活動等、生徒会執行部が活躍した 自己診断(生徒)「生徒会活動」81%(◎) ・体育祭では少しルール違反があったが、文化祭ではそれを返上するような生徒たちの活動があった 自己診断(生徒)「行事の満足度」体育祭78%、文化祭88%(○) ・1年生の部活動加入率43%(△) ・小・中学校との交流を4クラブ、24回(△) 女子バスケ、陸上、バレー、サッカー ・大掃除はきちんと行っているが、自己診断(生徒)「清掃活動を積極的に行う」79%(△) ・高齢者スマホ教室、小津川自然啓発安全管理、信太山里山自然公園作業、浜街道まつり運営、泉大津市アートフェス、母校訪問等、個人、クラブ単位で、ボランティア参加生徒7事業、75名(◎) イ・3月に検証 ・生徒会、生活委員が朝のあいさつ運動を行い、啓発を行った。自己診断(生徒)「高校に入ってからあいさつするようになった」80%(○) (3) ア・人権講演会では迫力ある講演を聞き、外国人差別について熱心に学んだ。また、HRでさまざまな課題について考えるとともに、日々の学校生活でも学んでいる。自己診断(生徒)「人権を学ぶ機会ある」92%(○) ・3回のいじめアンケートをもとに生徒へ聞き取り状況把握し、対応しているが、自己診断(生徒)「学校はいじめに真剣に対応」78%(△) ・人権講演会1回(○)

府立泉大津高等学校

4 安全・安心を土台にした総合的な学校力の向上	(1)生徒が安全・安心に学校生活を過ごせる環境づくりの充実 (2) 校内組織・教職員集団づくり、働き方改革に向けた取り組みの推進 (3) 「行きたい学校」となるよう、本校の教育活動を積極的に発信し、広報活動の充実を図る	(1) ア・教育相談・支援委員会、支援教育コーディネーターを中心に、SC・SSW との相談体制を充実、定期的なケース会議を行い、保護者や福祉機関等と連携し、具体的な支援を行う ・生徒一人ひとりへの支援とサポート体制を組織的に充実させる イ・保健・安全指導を徹底して、事故防止の取り組みを進める ・熱中・感染症、交通安全、薬物乱用、防災の指導の徹底と外部専門家との連携を図る ・大規模災害への備えと緊急事態発生時の迅速に対応できる校内体制の強化し、生徒にも周知徹底する。安否確認等のために緊急ブログやEメッセージを活用する ウ・個人情報の適正管理と個人情報保護の精神を徹底する (2) ア・学年主任間会議を活用し、生徒育成の教育課程の円滑な実施と内容の継承・充実につなげる イ・教職員が主体的に教育活動ができる学校現場づくりを推進し、誰もが学校運営に向けた建設的な改善策や新たな取り組みを提案できる教職員集団づくりを推進する ウ・教職員の新たな学びを育成する校内研修の充実と校外研修への参加を促進し、センター研修を軸にした研究授業と校内共有研修を実施する ・人権研修を充実させ、すべての教職員が、より確かな人権意識を身につけて、教育活動を行う ・分掌や委員会等の業務において OJT を活用し、初任から 10 年めまでの育成体制を充実させる エ・教職員の多忙化解消に対応した分掌業務のスリム化を進める ・働き方改革としての分掌業務の精査 ・教員の負担感の軽減と経験の少ない教員への支援 (3) ア・HP の充実を図り、中学校、保護者、教育関係者向けの情報発信を行うとともに、緊急掲示板ブログやEメッセージを活用し、緊急時の情報発信を迅速に行う イ・体験型の中・高・大（専）等多様な主体との交流・連携を進め、本校の魅力を発信する場とする	(1) ア・自己診断（生徒）「気軽に相談に乗ってくれる」71%以上〔70%〕 ・自己診断（保護者）「保護者の相談に適切に対応」85%以上維持〔86%〕 イ・各指導 1 回以上〔3 回〕 ・外部専門家活用 3 件以上〔6 件〕 ・自己診断（生徒）「事件・災害発生時の行動の周知」の肯定率 80%以上にする。〔78%〕 ・自己診断（教職員）「事故、災害等に適切な対処ができる役割分担の明確化」90%以上〔89%〕 ウ・校内研修 2 回以上〔4 回〕 (2) ア・自己診断（教職員）「各種会議は教職員の意思疎通や意見交換の場として有効に機能」肯定 80% 以上〔79%〕 イ・自己診断（教職員）「学校運営に教職員の意見が反映」75%以上の維持〔75%〕 ウ・センター研修との連携による研究授業と協議の実施 ・自己診断（教職員）「人権意識を高める指導を行っている」85%以上〔82%〕 ・経験の少ない教職員の育成 85% 以上〔79%〕 エ・業務内容の精選 ・学校休業日（夏・冬期）、定時退庁日とクラブ休業日 104 日の完全実施 (3) ア・校長ブログ 100 回以上〔130 回〕 ・自己診断（生徒・保護者）「学校 HP をよく見る」40%以上〔生 22% 保 29%〕 ・E メッセージ登録 90%以上維持〔96%〕 イ・中学校出前授業の 1 回実施〔1 回〕 ・多彩な学校交流 3 件以上〔7 件〕 ・学校説明会アンケート参加中学生の肯定意見 90%以上維持〔92.1%〕	(1) ア・SC、SSW は生徒の相談に適切に対応してくれ、支援の方向を示してくれる。教育相談・支援委員会、支援教育 Co を中心として、支援体制が充実している。自己診断（生徒）「気軽に相談に乗ってくれる」70%（△） ・自己診断（保護者）「保護者の相談に適切に対応」83%（△） イ・AED 講習 1 回、避難訓練 2 回（○） ・消防（熱中症）、警察（交通安全）、警察・市役所（通学マナー指導の際、一緒に通学路で指導）、少年サポセン（薬物）、福島県の被災者の方の講演、薬剤師（文化祭での健康相談）等 6 件（○） ・防犯・防災計画や危機管理マニュアルの周知、教職員の E メッセージの参加、安まちメール等の転送を実施。自己診断（生徒）「事件・災害発生時の行動の周知」の肯定率 84%（◎） ・自己診断（教職員）「事故、災害等に適切な対処ができる役割分担の明確化」79%（△） ・事件の注意喚起、学級閉鎖、災害等の際、緊急ブログ、E メッセージを活用した（○） ウ・校内外での失敗事例の際に校内研修実施 3 回（○） (2) ア・各学年主任は生徒育成について協力して進めている ・自己診断（教職員）「各種会議は教職員の意思疎通や意見交換の場として有効に機能」69%（△） イ・自己診断（教職員）「学校運営に教職員の意見が反映」69%（△） ウ・センター研修の受講者による校内研修の実施 4 回。初任研、インターミディエイト、10 年研で計 7 回の研究授業と協議を実施した（◎） ・同和問題に係る研修を実施、教職員は常に人権意識をもって指導しているが、自己診断（教職員）「人権意識を高める指導を行っている」は 82%（△） ・OJT を活用して教職員一丸となって育成の体制をとっている 自己診断（教職員）「経験の少ない教職員の育成」85%（○） エ・今年度はシステム更新等で時間外業務も増えたが、会議の精選、時間短縮等、業務削減に取り組んでいる（○） ・学校休業日（夏・冬期）、定時退庁日とクラブ休業日 104 日の完全実施（○） (3) ア・校長ブログ現在 98 回、公式 SNS 開設 フォロワー518 人 投稿 322 中学生や保護者も関心を持ってきている（◎） ・自己診断（生徒・保護者）「学校 HP をよく見る」生徒・保護者ともに 46%（○） ・E メッセージ登録 98.4%（○） イ・中学校出前授業を 1 回実施、中学校との協議で学びを得た（○） ・授業連携（泉大津市立中学校 3 校）・探究（大阪大学、岸和田高校）・家庭科実習（大調・辻調・大阪健康ほいく専門学校）7 件（○） ・生徒が説明や学校案内を行ったことで、熱心に参加してもらった。時間配分等を検証して 2 回めの評価はよかった。参加中学生のアンケート肯定意見 88.3%（△）
----------------------------	--	---	---	---